

総目次

上梓に寄せて

凡 例

横須賀の近世を学ぶために

資料編

第一章 近世の成立と三浦半島

第二章 浦賀奉行所の支配・機構

第三章 村の暮らしと生業

第四章 商業と流通

第五章 街道の負担と渡船場

第六章 寺社と村びと

第七章 異国船来航と海防体制

第八章 ペリー来航

第九章 開国から維新へ

資料解説

巻末付録

あとがき

横須賀市史編さん関係者・協力者

口 絵

諸国湊道のり附 (横須賀市自然・人文博物館所蔵)

天保国絵図 (国立公文書館所蔵)

秋谷村絵図 (若命寿男氏所蔵)

相模国三浦郡田浦村之図 (横須賀市教育委員会所蔵)

浦賀湊真図 (神奈川県立歴史博物館所蔵)

平根山御備場絵図 (東京都立中央図書館所蔵)

浦賀湊之図 (盛岡市中央公民館所蔵)

三浦古尋録 (国立公文書館所蔵)

野比村最宝寺境内図 (最宝寺所蔵)

ハイネ画・ペリー久里浜上陸図 (横須賀市自然・人文博物館所蔵)

異国船浦賀入港諸藩警固之図 (函館市中央図書館所蔵)

相州三浦郡横須賀製鉄所分見地割 (横須賀市自然・人文博物館所蔵)

細目次

第一章 近世の成立と三浦半島

第一節 三浦半島の村むら.....49

1	延宝四年四月	相模国三浦郡中石高帳	49
2	元禄一五年七月	相模国三浦郡郷帳	53
3	(元禄一五年)	相模国三浦郡郷帳	56
4	延享四年一月	浦方村々書上	60
5	(年不詳)	二四か村村高書上	62
6	文禄三年九月	長谷川長綱禁制	68
7	(年不詳)	旗本向井家略系譜	68
8	元和六年閏二月	向井正綱寄進状	69
9	(文化八年)	長井村代々支配領主書上	69

第二節 三浦半島の領主.....68

第三節 検地と年貢.....70

10	天正一九年閏正月	天正検地帳	70
11	寛永一九年二月	浦賀村年貢割付状	89
12	正保四年二月	浦賀村年貢割付状	91
13	寛文四年一〇月	長井村年貢割付状	92
14	天和元年二月	佐原村年貢割付状	94
15	元禄三年一〇月	佐原村年貢割付状	95
16	元禄五年二月	西浦賀村年貢割付状	96
17	元禄五年二月	東浦賀村年貢割付状	99
18	元禄七年二月	東浦賀村年貢割付状	101

第二章 浦賀奉行所の支配・機構

19	(年不詳)	浦賀番所規定・願書書式・問屋職勤め方などの書上	105
20	(年不詳)	浦賀奉行預所・役知郷村請取り渡し書付(享保以来の変遷)	121

第三章 村の暮らしと生業

第一節 年貢・諸役等負担.....139

21	宝永五年三月	落浚船役銀負担九か村の役負担経緯につき返答書	139
22	(宝暦一一年)	朝鮮使来朝時の藤沢宿差出し物(魚類代銀など)につき返答書	140
23	嘉永三年四月	文化三年年貢割付状写しおよび御普請所の書上帳	141
24	嘉永三年六月	三浦郡・鎌倉郡村々肴・薪仲買運上免除願い	147
25	嘉永六年三月	郡中入用一件内済につき仮議定書	148
26	嘉永六年三月	預所村々菜種など上納免除につき請書	149
27	嘉永七年六月	預所三か村幕領並高掛三役上納につき請書	150
28	嘉永七年七月	秋谷村橋普請入用につき勘定所宛預所役人伺い書	150

第二節 村の生活.....164

37	貞享四年六月	東西浦賀村・大津村境論裁許書写し	164
----	--------	------------------	-----

第三節 諸産業

38	享保三年二月 田地請返し証文	165
39	享保六年一〇月 婚礼につき合力金一〇両請取り書	165
40	(寛政一〇年)六月 百姓風俗取締り触れの廻状	166
41	嘉永二年二月 乳母奉公請状	167
42	嘉永五年二月 押売り薬売り行商につき詫状	168
43	嘉永五年二月 小田原外郎売薬と申す偽者召捕りに出役様お越し取調べ一件書付控え	170
44	嘉永七年八月 平左衛門婿与七平日不孝心につき詫状	172
45	嘉永七年九月 平兵衛ふと家出につき詫状	172
46	安政二年一二月 潰れ家名相統者の預所役所宛請書	173
47	安政三年一二月 御備金拝借年賦証文(橋御普請金より五両借用)	174
48	安政四年二月 貯穀仕法等閑の詫びと諸事儉約・家業出精につき村方一同より名主宛差上書	175
49	安政五年二月 秋谷村橋修復積立金貸付につき許可願	181
63	(年不詳)四月 離縁人別送り状の書き直し理由に	
62	(年不詳)三月 浪人・旅僧・勸化などにつき郡中一同規定書	191
61	(年不詳)一二月 小坪村浜方名主人選一件につき秋谷村名主へ礼金渡し覚え	191
60	(年不詳)二月 秋谷村いち奇特につき褒美書	190
59	文久三年二月 琴曲免許(中目録)	190
58	文久三年正月 名跡相統人不身持ちにつき引取証文	189
57	文久二年閏八月 夫婦いさかい・酒狂につき詫証文	188
56	文久二年八月 深夜酒盛につき詫証文	186
55	文久元年一二月 不行跡改心につき書付	186
54	文久元年九月 琴曲免許(裏組目録)	185
53	万延元年一二月 御備金拝借年賦済証文	184
52	安政五年一〇月 酒をめぐる詫証文	184
51	安政五年七月 名主跡役につき惣百姓連印頼証文	182
50	安政五年六月 頼母子講金借用証文	182
64	(年不詳)二月 惣益講貸出金より金一両借用証文	192
65	(年不詳)八月 預所・役知村々浦賀奉行廻村の道筋につき諸取調べ指示の廻状	193
66	(年不詳)九月 名主役交替、若命家相統につき申渡し書	194
67	(年不詳) 別家の年貢・諸役滞納分請求をめぐる相論の願書下書綴	196
68	(年不詳) 百姓間のいやがらせ一件につき江戸親類願書	202
69	(年不詳) 五郎吉がりんを連れ出した一件でお尋ねにつき返答書	204
70	文化六年八月 不漁時の他国稼ぎ禁止につき秋谷村浜中惣連印書	205
71	弘化四年一〇月 秋谷村大工・鍛冶職書上帳	207
72	安政元年一二月 御用石切出しにつき石山代金受取書	207
73	安政元年一二月 御用石切出し置場として作徳金受取書	208
74	元治二年二月 船大工渡世のため借宅住居願証文	208
75	明治三年一二月 林村地内塩浜につき流地証文	209
76	明治四年五月 蚕種改め印につき急廻状	210
77	(年不詳)九月 長屋支配人よりの歎願書	213
78	(年不詳)二月 村方大工勘左衛門橋普請落札につき達し書	215
79	(年不詳)四月 江戸奉公先につき書状	216
80	延宝二年九月より 江戸新肴場店起立証文写し	217
81	延宝五年八月より 浦方狐場出入り目安ならびに返答書写し控え	227
82	(元禄六年) すばしり漁を東浦賀問屋百姓に認可すべき旨勘定所宛代官申上げ書	232
83	(元禄六年) 東浦賀湊のすばしり運上金迷惑につき漁獲高一〇分一差上げに変更の願書	232

第四節 漁村・漁業

38	享保三年二月 田地請返し証文	165
39	享保六年一〇月 婚礼につき合力金一〇両請取り書	165
40	(寛政一〇年)六月 百姓風俗取締り触れの廻状	166
41	嘉永二年二月 乳母奉公請状	167
42	嘉永五年二月 押売り薬売り行商につき詫状	168
43	嘉永五年二月 小田原外郎売薬と申す偽者召捕りに出役様お越し取調べ一件書付控え	170
44	嘉永七年八月 平左衛門婿与七平日不孝心につき詫状	172
45	嘉永七年九月 平兵衛ふと家出につき詫状	172
46	安政二年一二月 潰れ家名相統者の預所役所宛請書	173
47	安政三年一二月 御備金拝借年賦証文(橋御普請金より五両借用)	174
48	安政四年二月 貯穀仕法等閑の詫びと諸事儉約・家業出精につき村方一同より名主宛差上書	175
49	安政五年二月 秋谷村橋修復積立金貸付につき許可願	181
63	(年不詳)四月 離縁人別送り状の書き直し理由に	
62	(年不詳)三月 浪人・旅僧・勸化などにつき郡中一同規定書	191
61	(年不詳)一二月 小坪村浜方名主人選一件につき秋谷村名主へ礼金渡し覚え	191
60	(年不詳)二月 秋谷村いち奇特につき褒美書	190
59	文久三年二月 琴曲免許(中目録)	190
58	文久三年正月 名跡相統人不身持ちにつき引取証文	189
57	文久二年閏八月 夫婦いさかい・酒狂につき詫証文	188
56	文久二年八月 深夜酒盛につき詫証文	186
55	文久元年一二月 不行跡改心につき書付	186
54	文久元年九月 琴曲免許(裏組目録)	185
53	万延元年一二月 御備金拝借年賦済証文	184
52	安政五年一〇月 酒をめぐる詫証文	184
51	安政五年七月 名主跡役につき惣百姓連印頼証文	182
50	安政五年六月 頼母子講金借用証文	182
64	(年不詳)二月 惣益講貸出金より金一両借用証文	192
65	(年不詳)八月 預所・役知村々浦賀奉行廻村の道筋につき諸取調べ指示の廻状	193
66	(年不詳)九月 名主役交替、若命家相統につき申渡し書	194
67	(年不詳) 別家の年貢・諸役滞納分請求をめぐる相論の願書下書綴	196
68	(年不詳) 百姓間のいやがらせ一件につき江戸親類願書	202
69	(年不詳) 五郎吉がりんを連れ出した一件でお尋ねにつき返答書	204
70	文化六年八月 不漁時の他国稼ぎ禁止につき秋谷村浜中惣連印書	205
71	弘化四年一〇月 秋谷村大工・鍛冶職書上帳	207
72	安政元年一二月 御用石切出しにつき石山代金受取書	207
73	安政元年一二月 御用石切出し置場として作徳金受取書	208
74	元治二年二月 船大工渡世のため借宅住居願証文	208
75	明治三年一二月 林村地内塩浜につき流地証文	209
76	明治四年五月 蚕種改め印につき急廻状	210
77	(年不詳)九月 長屋支配人よりの歎願書	213
78	(年不詳)二月 村方大工勘左衛門橋普請落札につき達し書	215
79	(年不詳)四月 江戸奉公先につき書状	216
80	延宝二年九月より 江戸新肴場店起立証文写し	217
81	延宝五年八月より 浦方狐場出入り目安ならびに返答書写し控え	227
82	(元禄六年) すばしり漁を東浦賀問屋百姓に認可すべき旨勘定所宛代官申上げ書	232
83	(元禄六年) 東浦賀湊のすばしり運上金迷惑につき漁獲高一〇分一差上げに変更の願書	232

84	(延享元年)三月 下山口村・秋谷村浦境相論につき秋谷村返答書下書	233
85	延享元年六月 下山口村・秋谷村の村境・海境・越石場境相論内済証文	235
86	延享二年六月 大津村・公郷村魚獵場海境論裁許書	238
87	宝暦一二年二月 八幡村と西浦賀村の漁場出入り相論につき評定所宛八幡村返答書	239
88	(文化一四年) 大島鯉漁船へ生餌差出し難き旨島方役人中宛申上げ書	243
89	天保八年九月 御大札御用活鯛御用向きにつき飛脚通行手形	243
90	天保一三年二月 野比村・久比里の御用蛎取り揚げ方相論につき野比村口上書	244
91	安政三年八月 活鯛御用勤めの経緯ほか永嶋庄司名主勤中の書上	245
92	文久二年一〇月より すばしり諸控え(将軍上覧ほか)	249
93	慶応三年七月 六人網株式難渋につき御救仕法立遵守の証文	261
106	決め証文	281
106	宝暦一二年四月 久比里浦入会一件につき連印証文	282
107	安永七年六月 新三郎・新四郎持ち地譲渡につき変更願ひ	285
108	寛政五年一〇月 潮除け堤欠損につき水門樋普請願ひ	286
109	寛政六年九月 村入用書張置きの件につき伺い書	287
110	寛政八年五月 割付皆済目録へ小前百姓拝見書連印につき両組名主願書	288
111	寛政一一年一二月 水門樋普請御手当金下付につき請証文	288
112	寛政一二年三月 不作につき貯穀御免願ひ	289
113	享和二年四月 新三郎欠落一件につき吟味願ひ	290
114	文化三年より 水門樋破損につき御普請願ひおよび大貫代官の勘定所への伺い書	291
115	文政四年六月 与兵衛組浦賀奉行所預所・役知に支配替えにつき分郷請証文	295
116	文政八年三月 水門樋橋普請大工手間積立帳	296

94	(年不詳)閏四月 村方地引網袋二つ質物請戻し延引願ひ	262
95	(年不詳) 久比里浦魚漁場相論につき八幡村返答書	262
96	(年不詳) 田戸浦小買職の不正荷物差配の詫びおよび以後嚴重取締りの証文	266
97	(年不詳) 御免押送船株につき秋谷村申上げ書	266
98	(年不詳) 村中漁船六八艘を質に金九八両借用証文	267

第五節 内川新田の成立と展開

99	寛文五年二月 新田開発の高札写し	268
100	寛文五年一二月 砂村新左衛門覚書	268
101	寛文六年九月 新田開発につき連印手形	274
102	延宝元年一〇月 内川新田年貢割付状	275
103	延宝七年六月 新田場二分の件につき絵図裏書	277
104	正徳二年五月 波除け葭刈取り一件につき訴状および返答書	277
105	正徳四年五月 波除け葭刈取り一件裁決につき取	

117	文政八年三月 御定杭設置につき取交わし証文	297
118	文政八年八月 御普請所御用印職御免の件届書	298
119	天保四年七月 空地入会訴訟につき八幡村願書に対する内川新田の返答書	298
120	天保一二年八月 水門樋橋運用規定	301
121	文久三年五月 字常風谷・場崎谷開発の件につき八幡村・内川新田より中止願ひ	301
122	慶応元年八月 内川新田規定書	303
123	慶応四年二月 水門樋橋掛替えにつき届書	306
124	明治元年 内川新田村明細帳	307
125	明治四年三月 御一新につき支配名目切替え証文	311

第四章 商業と流通

第一節 全国的な物資流通と浦賀湊

126	文化八年より 煎海鼠仕切状	315
127	天保四年三月より 浦賀湊水揚げの水油の扱い方	315

128	天保七年九月 菱垣廻船荷物につき江戸問屋願出 一件 349	316
129	天保七年九月 下り塩につき江戸問屋との掛合い 一件 352	
130	天保一〇年十一月より 浦賀水揚荷物につき書上 358	
131	天保一三年 浦賀湊水揚荷物扱い方につき書上 371	
132	嘉永七年一〇月 下り塩につき江戸問屋との掛合 い一件 373	
133	文久二年正月 大豆買入れに関する書状 375	
134	慶応三年正月 浦賀水揚商品書上 378	
第二章 江戸内湾や相模湾を中心とする地域の流 通と廻船 …………… 399		
135	明和六年一〇月より 押送船極印願いなど川船役 所への届書 399	
136	(嘉永五年)正月より 鎌倉郡片瀬村廻船手形 (年不詳)一〇月より 浦賀商人送り状 406	
137		
147	文化一五年三月 金沢町屋村加助郷人足ならびに 鎌倉郡大筒御用人足免除願い一件書留 470	
148	弘化四年四月 彦根藩家来御備場海岸見分につき 人馬繼立て宿々村々請印帳 479	
149	嘉永元年四月 浦賀奉行所御尋ねにつき三浦郡・ 鎌倉郡人馬賃賃錢書上 480	
150	嘉永元年七月 駅場人馬ならびに夫役人馬過分難 渋につき彦根藩への願書 484	
151	安政四年八月 繼立て中荷物紛失につき秋谷村詫 び状 490	
152	慶応元年四月より 將軍家茂進発につき藤沢宿当 分助郷申付けなど諸役控え 490	
第二章 大通行時の負担 …………… 496		
153	正徳元年十一月 朝鮮通信使来朝につき馬入川船 橋御用覚え 496	
154	享保一三年二月 下平作村組合九か村の日光社参 御用人馬役免除願い 497	
155	享保一三年四月 將軍吉宗日光社参につき触書な らびに役水主勤め方御用留 499	
156	延享四年六月より 朝鮮通信使来朝につき三浦郡 の御用日記 514	
157	延享四年九月 浦賀・三崎町・城ヶ島朝鮮人來朝 人馬役御免申渡し 526	
158	安永四年閏一二月 將軍家治日光社参につき願書 ならびに旧記書上など控え 527	
159	天保一四年四月 將軍家慶日光参詣留守中浦賀表 御固め御用につき諸控え 547	
第三章 渡船場と渡し船 …………… 577		
160	文化一〇年正月より 横須賀村など渡船場出入り につき議定書 577	
161	文政二年一〇月 渡船差し止め一件につき洲崎村 惣代頼み一札 583	
162	(文政二年) 保土ヶ谷宿との野島浦渡船出入りに つき洲崎村返答書 586	
163	天保九年七月 上総国より大山参詣の渡船出入り 一件につき一札 587	
164	(天保九年) 上総国より大山参詣の渡船出入り一 件につき一札 587	
第三章 干鰯の流通と干鰯問屋 …………… 410		
138	元禄五年三月より 東浦賀干鰯問屋旧記 410	
139	嘉永元年二月より 干鰯仕切状 426	
140	嘉永四年三月より 干鰯問屋再興につき 429	
141	嘉永四年六月より 干鰯問屋再興につき東浦賀と 西浦賀掛合一件 433	
142	安政六年正月 干鰯問屋商法改め方書上 441	
143	文久三年正月 大住郡須賀湊商人干鰯買入れにつ き出入り一件 447	
第五章 街道の負担と渡船場		
第一節 脇往還の繼立てと東海道 …………… 451		
144	宝暦一二年二月 三浦郡秋谷村など一七か村へ鎌 倉雪之下村繼立て人馬触れ当ての村触 451	
145	文化二年六月より 鎌倉雪之下村助郷触れ当てに つき三浦郡助郷村々との出入り一件書留 452	
146	文化五年四月 幕府鉄砲方役人御台場・御備場見	

第六章 寺社と村びと

第一節 寺社書上

165	元禄一〇年六月	野比村薬師免田支配をめぐる最宝寺口上書	593
166	元禄一二年五月	佐原村堂宮書上	594
167	元禄一二年	公郷村堂社除地願い	594
168	文化九年四月	津久井村寺社庵書上	596
169	文化九年五月	野比村寺社書上	598
170	文化九年六月	池上村寺社書上	606
171	文政四年七月	池上村除地・年貢地・堂社書上	609
172	天保三年五月	池上村妙藏寺除地作付分書上	610
173	天保三年五月	秋谷村円乗院除地作付分書上	611
174	天保一四年九月	須軽谷村朱印地・除地・年貢地堂社書上	611
175	明治三年一〇月	浦賀村組合東村々寺院本末寺号	

など明細書上 612

176 明治三年一二月 須軽谷村宮社書上 622

177 明治四年九月 東浦賀村東叶神社・八雲大神明細書上 624

178 (年不詳) 秋谷村正行院書上 627

179 (年不詳) 秋谷村妙忍寺書上 629

第二節 野比村最宝寺の本寺末寺争い 630

180	寛文八年三月	最宝寺末寺たる旨最福寺請書	630
181	延享四年一二月	西本願寺門跡江戸参向の先触れ書替えにつき吟味願い	630
182	延享五年二月	三浦郡末寺一〇か寺最宝寺添状停止願い	631
183	延享五年三月	末寺一〇か寺願書につき最宝寺返答書	632
184	延享五年六月	添状案につき最宝寺口上書	635
185	(寛延元年)八月	最宝寺住持より西本願寺への詮議願い	637
186	(寛延元年)一〇月	最宝寺西国末寺帰付および院	

第三節 寺院経営の再建 650

187	(延享五年)	最宝寺添翰につき京都西本願寺家老書状	639
188	(寛延二年)正月	最宝寺在京裁断願い	639
189	寛延二年七月	最宝寺より寺社奉行へ願書	640
190	寛延二年九月	江戸築地本願寺へ寺社奉行より御声掛かり願い	642
191	(宝暦三年)二月	最宝寺三浦郡への廻達一本化願い	642
192	宝暦三年一〇月	添状認可につき双方和談一札	643
193	(宝暦三年)一〇月	築地御坊より和談承諾の書状	644
194	(宝暦四年)	築地御坊より添状文言の書付	645
195	文化九年九月	最宝寺寺格につき願書	645
196	安政三年三月	最宝寺門徒の件につき一札	646
197	文久二年一〇月	最宝寺順讃御免願い	646
198	元治二年二月	添状記し方変更につき請状	649
199	文化五年一二月	山門金二八両長安寺拝借証文	650
200	文化五年一二月	本山什金二八両檀方拝借証文	650
201	文化五年一二月	新山門金二六両余長安寺拝借証文	651
202	文化五年一二月	本山什金二六両余檀方拝借証文	652
203	文化五年一二月	十夜講金二七両長安寺拝借証文	652
204	文化五年一二月	本山什金二七両檀方拝借証文	653
205	文化五年一二月	再建金五二両余長安寺拝借証文	653
206	文化五年一二月	本山什金五二両余檀方拝借証文	654
207	文化五年一二月	本山拝借金滞りにつき長安寺質地証文	655
208	文化五年一二月	本山拝借金滞りにつき長安寺二重書入証文	655
209	文政一二年三月	長安寺住持本山より選任願い	656

第四節 神社と神職

210	文政一二年三月	長安寺住持檀方請代願い	658
211	(天明元年)九月	秋谷村神明社宮守若命勘解由許状下付願い	659
212	天明元年一〇月	秋谷村神明社宮守若命勘解由祠官許状願い	660
213	天明元年一二月	若命豊後藤原家房神道裁許状	660
214	文政五年正月	神職退任につき正行寺檀方復帰願い	660
215	(文政一三年)	神職継目願い	661
216	文政一三年三月	若命豊後藤原秀茂神道裁許状	661
217	文政一三年五月	名主退役につき勘解由神職勤務願い	662
218	天保三年三月	神道葬祭につき離檀願い	662
219	安政六年一〇月	神明社へ神社号願い	663
220	万延元年八月	秋谷神社号免許につき出府暇願い	663

第五節 八幡久里浜村不動支配一件

221	享保一七年閏五月	八幡社地・不動堂地支配につき村役人口上書	664
222	享保一七年閏五月	不動堂地支配連判一札につき八幡村・久里浜村口上書	665
223	(享保一八年)	八幡村不動支配出入りにつき八幡久里浜村口上書	666

第六節 村と神社

(1) 佐島村天神社朱印地の用益権

224	元文二年三月	天神島磯根につき最岸寺訴状	668
225	天明六年一二月	最岸寺藻草運上請取帳	669
226	嘉永二年一二月より	御朱印地書上	679
227	安政六年六月	天神社領朱印状写し	680
228	安政六年一二月	御朱印天神宮島藻草御運上請取状	684
229	明治二年八月	天満宮神主願い	684
230	明治四年七月	元朱印地天神社領田畑取調べ書上	685

(2) 寺院の勸化

231	嘉永二年三月	西叶神社普請につき勸化帳	686
-----	--------	--------------	-----

(3) 祠堂金貸付

232	天保五年三月	最宝寺より金子借用証文	697
233	元治元年六月	内海台場用石類納入につき学席相続出世金拝借証文	697

(4) 寺社と村の暮らし

234	正徳五年二月	聖徳寺・檀方争論につき帰檀一札	698
235	明和六年一二月	半檀家につき一札	699
236	寛政一二年一二月	秋谷村神明社神事祭礼につき書上	699
237	文政一二年二月	大和廻り案内人日雇一札	700
238	弘化四年三月	諏訪明神神木釘打ち一件詫状	701
239	安政五年四月	祭礼につき香具師止宿渡世一札	702

第七章 異国船来航と海防体制

第一節 異国船来航と警衛状況

240	安政六年八月	とみ剃髪ながら不正の宗派でない旨一札	702
241	明治四年正月	夫婦の誓い	703
242	(年不詳)	忠次郎埋葬につき一札	704
243	元文四年八月	浦賀入津の廻船へ異国船など不審船通報の申渡し	707
244	寛政四年一二月	海岸防備強化の申渡し	707
245	文政元年八月	イギリス船ブラザース号来航始末書写し	707
246	文政五年五月	イギリス船サラセン号来航につき給与品書上	711
247	天保八年六月より	アメリカ船モリソン号渡来につき浦賀奉行報告書	711
248	(天保一〇年)二月	浦賀警衛の諮問につき川越藩・小田原藩家来の答書	716

第三節 海防と村むら

277	文化九年六月	異国船来航時の駈着人歩差出し方につき申渡し	798
276	嘉永三年八月	近海見分につき蒼隼丸乗試しなどの報告書	796
275	嘉永二年六月より	下田丸造替えにつき評議	791
274	嘉永二年六月	砲術教授として下曾根金三郎浦賀派遣の申渡し	791
273	嘉永二年二月より	スループ形船建造につき入用取調べの評議	790
272	嘉永元年八月より	西洋辞書・地図下付願いにつき評議	788
271	嘉永元年六月より	紅毛小通詞並堀達之助通弁巧者につき交代期限延長の評議	786
270	嘉永元年五月より	小屋普請不出来のまま増員与力同心浦賀へ出立につき評議	784
269	弘化五年正月より	浦賀奉行所手付出役として砲術師範招聘につき評議	781

第二節 浦賀奉行所の改革

249	天保一〇年三月	平根山・観音崎両御備場および安房崎遠見番所の大筒配備状況	719
250	天保一〇年三月	海岸見分につき鳥居耀蔵意見書および評議書	720
251	天保一〇年四月	海岸見分につき江川英竜意見書	727
252	弘化三年六月	ビッドル艦隊来航につき武州金沢(六浦)藩の援兵記録	731
253	弘化三年六月	ビッドル艦隊来航につき浦賀奉行組与力見習中島三郎助書簡	738
254	(弘化三年)	ビッドル艦隊来航に関する浦賀商人記録	739
255	弘化四年正月	異国船来航時の固船差出しにつき浦賀奉行・川越藩・忍藩への老中達し	743
256	弘化四年三月より	異国船来航時の心得方ならびに伺書留	744
257	弘化四年八月	異国船乗留め心得方など伺い書	754
258	嘉永二年閏四月	イギリス船マリナー号来航につき浦賀より来状	756
259	嘉永二年閏四月	イギリス船マリナー号来航につ	

278	文政元年五月	異国船来航時の焚出しなど賄い方の覚え	805
279	弘化二年三月	アメリカ船メルカドル号来航につき役船数書上帳	808
280	弘化四年五月	千駄崎台場取建てにつき一札	809
281	弘化四年八月	三崎陣屋引越しにつき下宿割帳	811
282	弘化四年一〇月	非常御用時の米搗立て・積送りにつき上申書	813
283	嘉永元年五月	上宮田・三崎御備船割付帳	814
284	嘉永三年六月	台場見分につき菓子代下付願い	820
285	嘉永三年六月	台場要用の諸品貸渡しにつき書上	821
286	(嘉永三年)	台場見分につき諸入用勘定書上	824
287	嘉永五年正月	鳥ヶ崎・亀ヶ崎両台場普請の請負につき上申書	825
288	嘉永五年正月	台場普請の請負につき一札	826
289	嘉永五年二月	台場普請の請負につき願書	827
290	嘉永五年九月	台場取建てにつき年貢上納継続請書	828

き浦賀奉行からの注進 758

761

761

764

767

769

772

774

775

776

777

291	嘉永五年九月 御用地につき観音崎畑地引歩承知の請書	828
292	(嘉永五年)一〇月 鴨居台場普請の褒賞書上	829

第八章 ペリー来航

第一節 浦賀奉行組与力・同心からの情報……………833

293	嘉永六年六月 異国船渡来覚え	833
294	嘉永六年六月 浦賀奉行組同心書簡写し	833
295	嘉永六年七月 浦賀奉行組与力からの聞書	834

第二節 諸藩の動向……………848

296	嘉永六年六月 川越藩の警衛記録	848
297	嘉永六年六月 浦賀および江戸市中警衛につき書留	886
298	嘉永六年八月 加賀藩の異国船見聞録	897

第三節 情報の広がりと世相……………926

299	嘉永六年六月 ペリー来航に関する村役人の日記	926
300	嘉永六年 ペリー提督口上書およびアメリカ大統領副翰写し	934
301	嘉永七年正月 ペリー再来航時の饗応の様子および狂歌など留書	935
302	(年不詳) ペリー来航の狂歌	945

第九章 開国から維新へ

第一節 将軍の上洛……………949

303	文久二年九月より 将軍徳川家茂上洛につき諸控え	949
304	文久二年一〇月より 浦賀表へ老中御越しの旨につき諸控え	956
305	文久三年二月 上洛の節、明神崎警衛につき人足帳	968
306	文久三年一二月より 将軍徳川家茂再上洛につき	

諸控え 973

第二節 横須賀製鉄所……………985

(一) 横須賀製鉄所の建設……………985

307	文久二年六月 製鉄所取建地見分につき人馬触れ	985
308	慶応元年八月 勘定吟味方改役並・支配勘定横須賀村出立につき書付	990
309	慶応二年正月 横須賀製鉄所建設の野帳	991

(二) 横須賀製鉄所の運営……………1018

310	慶応二年二月 製鉄所警衛につき書付	1018
311	慶応二年一〇月 機械陸揚げ入用請取方の書付	1019
312	(慶応二年) 牛込忠左衛門、製鉄所伝習人取締役仰せ付けの達し	1021
313	慶応三年正月より ヴェルニーの申立てにつき洋銀支払い方の上申	1021
314	慶応三年三月 横須賀製鉄所番兵の手当につき書付	1025

315	慶応三年六月 麻苧など納め方請負人につき書付	1025
316	慶応三年六月 製鉄所建物の普請向請負人につき書付	1026
317	慶応三年七月 浦賀奉行、製鉄所奉行へ用談申入れにつき書付	1026
318	慶応三年九月 製鉄所通弁立広作手当につき書付	1027
319	慶応三年九月 伴野三次郎、製鉄所取締掛仰せ付けにつき書付	1028
320	慶応三年一〇月 船材買上げにつき書付	1028
321	慶応三年一〇月 製鉄所の諸術伝習人手当につき書付	1031
322	慶応三年一〇月 幕府軍艦蟠竜船、修復完了のうえ品川へ帰帆につき届書	1032
323	慶応三年一二月 仏人デスパリーニ、絵図引方として御雇いにつき書付	1032

(3) 横須賀遊参所の建設

- 324 慶応三年九月より 横須賀表遊参所許可につき製鉄所奉行の意見 1033
- 325 慶応三年一〇月 横須賀表遊参所許可につき外国奉行の意見 1035
- 326 慶応三年一〇月 遊参所建設につき公郷村名主と横須賀村名主の取替規定 1036
- 327 慶応四年閏四月 遊参所差許しにつき冥加金上納の請書 1037
- 328 慶応四年八月 遊女屋など建設願い 1042

第三節 最後の浦賀奉行所役人

(1) 浦賀奉行土方勝敬

- 329 元治二年正月 土方出雲守勝敬、浦賀奉行拝命の起請文前書 1043
- 330 元治二年正月 足高につき問合せおよび回答 1044
- 331 慶応元年一二月より 馬喰町貸付金年延願書 1044
- 332 慶応三年三月 屋敷書付取調べにつき達し書 1046
- 333 慶応四年六月 土方安房守から八十郎へ改名につ

き届書

- 334 慶応四年七月 土方八十郎隠居願い 1046
- 335 慶応四年七月 暇につき心底書付 1049
- 336 明治元年九月 上総国東浪見村への帰農願い 1050
- 337 明治元年一二月 浦賀奉行所退去につき問合せおよび回答書付 1050
- 338 明治二年八月 帰参の願書 1051
- 339 明治三年三月 静岡藩扶持短冊 1052

(2) 浦賀奉行組与力中島三郎助

- 340 明治元年一〇月 宮古にて三郎助よりすず宛書簡 1052
- 341 明治元年一二月 鷲の木上陸の旨、三郎助よりすず宛書簡 1053
- 342 明治二年二月 五稜郭占領の旨、三郎助よりすず宛書簡 1054
- 343 明治二年三月 討死覚悟につき三郎助より家族一
- 344 明治二年四月 千代ヶ岡台場にて三郎助よりすず宛書簡 1055

宛書簡

- 345 明治二年四月 決戦の心得につき三郎助よりすず宛書簡 1055